**４月１２日**　　**テーマ：とりなしの祈り**

**聖書箇所：創世記１８章１６節～３３節**

◆今日のみことば

“こうして、神が低地の町々を滅ぼされたとき、神はアブラハムを覚えておられた。それで、ロトが住んでいた町々を滅ぼされたとき、神はロトをその破壊の中からのがれさせた。”創世記１９章２９節

◆メッセージ

カナンの地に導かれた後、アブラハムさん甥のロトさんと分かれて住むことになりました。神さまの祝福を受けて、家畜が増えたために広い土地が必要になったからです。ロトさんは、緑多くにぎやかなソドムとゴモラの町を選んで住みました。この町の人々は、神さまを恐れず、自分たちの欲のままに重い罪を犯し続けていました。やがて、神さまは、ソドムとゴモラの町を滅ぼすことにしました。

神さまは、そのことをアブラハムに教えてくださいました。アブラハムさんはどうしたと思いますか？「悪い町なんだから、仕方ない。」と知らんぷりしたでしょうか。いいえ、神さまに祈りました。その町には、ロトさん家族がいます。「神さま、その町に五十人の正しい信仰者がいるかもしれません。その五十人のためにお赦しくださいませんか。」とお尋ねしたら、神さまは、滅ぼさないと約束してくださいました。でも、五十人もいないかもしれません。それで神さまに四十五人がいたら、四十人、三十人、二十人、十人と、六回もお願いをしました。神さまは、アブラハムの祈りをすべて聞いて受け入れてくださいました、「滅ぼさないよ。十人のために」。ところが、最後の十人の正しい信仰者もいなかったのです。ソドムとゴモラの町は滅ぼされることになりました。ロトさんの家族はどうなったでしょう？“神はアブラハムを覚えておられた。”アブラハムさんは、甥と町の救いのために、何度も何度も一生懸命祈りました。神さまはそれを覚えてくださってロトさんを救ってくださいました。

神さまがソドムとゴモラの町を滅ぼすご計画を知らせた理由がわかりますね。そうです！アブラハムが他の人のために祈る「とりなしの祈り」の人になることを望んだからです。神さまはあなたにもとりなしの祈りの人になることを望んでおられます。自分のことだけでなく、家族のこと、友だちのこと、住んでる町の人たちのために祈りましょう。

◆お祈り

「祈りの課題の幅がますます広がり、粘り強く答えられるまで祈るとりなしの祈りの人になれますように。」

（登戸教会牧師　李俊昊）